

第2分科会

不適切ケアのない現場を目指して
～認知症ケアの視点から～

『人』と『認知機能の障害（低下）』をみる話

内容

- 介護現場でみられる不適切ケアや虐待事例を取り上げ、発生要因や防止策について演習をとおして考えます。また、よりよいケアを目指す上で欠かせない、認知症高齢者への理解を深めます。
- 認知症高齢者⇒人と認知症、又は、認知症と人

『繋がるということ』

人と認知機能の障害（低下）を理解するための
キーワード

今日のメニュー

1. 前提を考える
2. 認知機能の障害（低下）を理解する
3. 虐待が起きる時（演習）
4. 『点』と『線』と『面』の話
5. 認知機能の障害（低下）の支援の実際
6. 前提を変える
7. まとめ

これは虐待ですか？

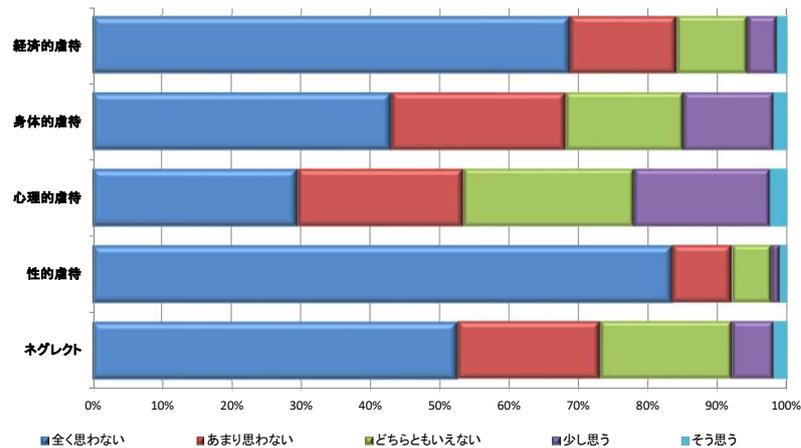
1	高齢者が言うことをきかないので軽く叩いた
2	部屋に鍵をかけて外に出られないようにした
3	食事を食べないと体に悪いと思い、嫌がっていたが食べさせた
4	介護のストレスがたまり怒鳴ってしまった
5	何度も同じ話しをするので疲れて無視した
6	排泄を失敗したので外の人にわかるように布団を干した
7	おむつ交換の回数を知らないで少なくしていたら、皮膚疾患が悪化した
8	部屋を長い間掃除をしなかったためゴミが散らかりほこりがたまっている
9	「水を飲みたくない」と本人が言うので、飲ませなかったら脱水になった
10	便が出ないとかわいそうだと思い、お腹をマッサージしたが、嫌がって大声を出した

すべてが虐待の可能性

- この表現だけでは判断できない事例もありますが、どの事例も状況や程度によっては虐待との指摘を受ける可能性があります。
- また不適切なケアであるとの認識も必要です。

Q. あなたは次の虐待をしてしまうと思いますか？

Q. あなたは次の虐待をしてしまうと思いますか？ (n=467)



自己紹介ゲーム

- テーマ「仕事で大切にしている事」 ※氏名・所属も忘れずに。
- 時間は、一人1分間です。
- 私が、合図をしてから、起立の上始めて下さい。
- 1分が経過したら、合図をだしますので、途中でも止めて時計回りで次の人にかわって下さい。

このゲームの目的

- ・限られた時間の中で日頃とは違った角度から自分を表現することを体験していただきました。
- ・皆さんは、どうでしたでしょうか？
 - ・話しにくかったでしょうか？
 - ・逆に皆さんの聴く態度は、どうでしたでしょうか？
- ・日頃、私達は他者の話をどのような姿勢で、どのような関係で、どのような先入観、固定観念を持ってかかわっているのでしょうか？

人は人との関係の中で 自己の在り方を認識しています

- ・強制的に知らない場所や更にまったく知らない人達の中で、これから過ごさなければならないとした時、お互いに少しでも知ることができたら、ちょっと安心しませんか。
- ・お互いに少し気持ちが楽になれるはずです。

彼らとの繋がり方を
考えてみませんか？

「目を開けて
もっと私を見て！」

イギリス ヨークシャー

アシュルディー病院の

老人病棟の奇跡

人として
生きてきた姿が尊ばれ
生きている姿に関心が向けられ
生きてゆく姿そのものの創造に
役立てること

支援の本質より

『前提を考える』

DVD『認知症ケア』

NHK 厚生文化事業団

15

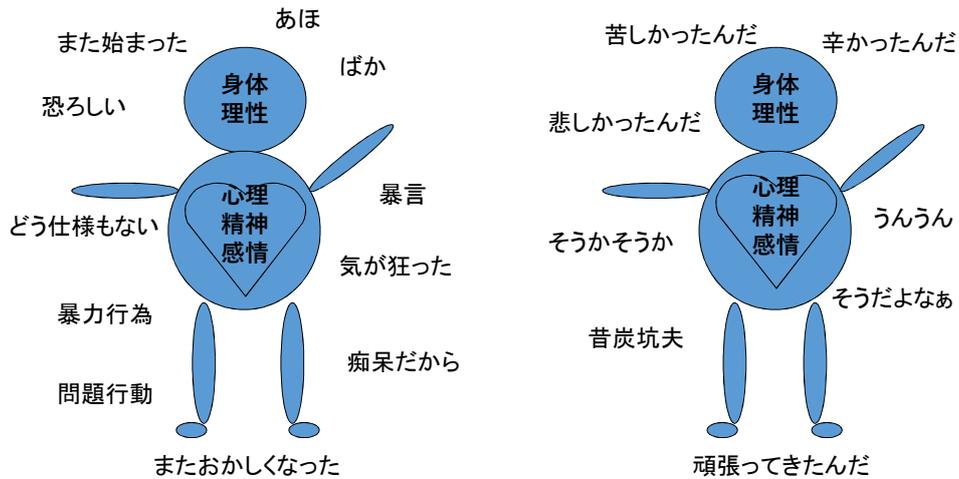
過去に行われてきた介護？

- ◆手間が省けるからと、男性はブルー、女性はピンクの上下スウェットを平気で着させる専門職
- ◆誰が見ていようが場所さえも構うことなく、オムツ交換をする専門職
- ◆おむつを外すからと背面ジッパーのつなぎ服を着せる専門職
- ◆便が出ていることがわかっているにもかかわらず、おむつを交換しない専門職
- ◆ベットに高い柵をつけてその中に放り込む専門職
- ◆自分たちに不都合があるから薬で動けなくしてしまう専門職
- ◆外に出ていけないように、建物に閉じ込める専門職
- ◆井の中にご飯もおかずも薬も放り込んで食べさせる専門職
- ◆立ったまま、何も言わずに食べ物を口の中に放り込む専門職
- ◆できることであっても危ないからとやらせない専門職
- ◆洗髪しやすいからと男女かまわず短髪にする専門職

ルームウォーカーに向かって 叫ぶAさん



私たちは身体（肉体）・精神（心）・魂（感情・本能・感性）で感じ生きている存在だとすると



つまり

問題な人と思っている人たちの
中心に居る彼の存在価値



解ろうと思っている人たちの
中心に居る彼の存在価値



人間の評価の3つの基準

1. Doing (行動)

学校教育 職場評価 (人事考課など)
(1・2の評価で3を決まる)

2. Having (結果)

自己受容とは、ここを切り離す、何があっても自分は尊いという考え方。

3. Being (存在)

生まれた時

人間の身体は
身体・精神体・感情体
この3つで成り立っている

私たちは
身体（肉体）・精神体（心）・感情体（本能・感性）
のバランスを保ちながら生きている存在です

人の姿と認知症

・姿の捉え方からスタート

どんな姿かと思っているかがその後の関わりや支援
（介護・ケア）に影響する

**視点（姿の捉え方）は認識を創造し
認識は経験を創造する**

虐待が起きる時

皆さんで具体的に考えてみませんか？

23

北海道内地域密着型サービス事業所における虐待の具体的な内容について

- 食事の際に、手づかみで食べようとする利用者に職員が「こんな汚い食べ方して」と怒鳴る。
- 食事の際に、食事が遅い利用者に職員が「何やっているの」と怒鳴る。
- 食事の際に、食事が遅い利用者に食事の最中に職員が「もういいでしょう」と食事をさげる。
- 職員が「もうごちそうさましたでしょう。」等と言い、利用者の食事する事を抑止した。

- 日頃から失禁する利用者に対して、職員が「汚い」「ちゃんとして」「臭い」と怒鳴る。
- 利用者の排泄行為の抑制をした。
- 意欲のある利用者に職員が「頼んでもいないことを勝手にしないで」と怒鳴る。

- ・利用者ができないことに対して、職員が「何でできないの」と怒鳴る。
- ・同じことを訴える利用者に職員が「何回言ってもわからないのだから」と怒鳴る。

- ・施設代表者が利用者に対して「コンニャロー」と怒鳴った。
- ・他の利用者に処方された下剤（ラキソベロン）を医薬品の専門的知識及び資格を有しない管理者及びユニットリーダーの判断により、処方されていない利用者に服用させた。

- ・ 利用者の生活保護費で購入した物品、食材を職員が私的に流用した。
- ・ 利用者に交付された福祉タクシー券を職員が私的に流用した。
- ・ 利用者による他入居者への威嚇的行動及び食事後の服薬介助時の抵抗に耐えかねて、職員が利用者の頬を手で叩いた。

- ・ 食事の際、利用者に対して、味付けをしていない食事の提供をした。
- ・ 言うことを聞かない利用者に土下座をさせた。
- ・ 帰宅願望が出現した際に戸を閉め、フロア内を意図的に徘徊させた。
- ・ 居室入り口に自転車のチェーンロックをかけ、行動の抑制をした。

- ・ 職員が、後ろから利用者を押したり、腕を掴んだりしてふらつかせた。
- ・ 利用者に「死ね」と言った。
- ・ 利用者の後頭部を平手打ちした。
- ・ 利用者の腕をひねり上げた。

- ・ 趣味が折り紙の高齢者について、「本人が職員に『折り紙を下さい』と言うまで渡さないように。」と、他職員に指示していた。

- ・ 職員が利用者の口の中にお手玉を入れた。

論外編

- ・ 利用者に乗せたまま、歩行器を勢いよく押して遊んだ。
- ・ 4の字固めをかけた。
- ・ 殺した。

事件後、施設がとった改善措置

- 虐待、権利擁護研修の定期開催
- 接遇研修の定期開催
- カンファレンスの強化
- 職員間のコミュニケーション改善
- 人員体制の見直し
- 虐待事例に対する第三者による意見聴取
- ケアマネジメント会議の定期開催
- 事故報告体制の見直し
- 複数の者による金銭管理の徹底
- 管理者とケアマネージャーとの情報共有
- 事件に対する反省と再発防止策を徹底討議
- 内部評価制度の導入
- 医療連携による事故防止
- 職員研修計画の見直し
- 管理者による施設内巡回の強化（利用者及び職員の観察）

あなたは
何と？誰と？どんな風に
繋がっていると安心ですか？

例えば
「知らない人たちばかりの中にいるとき」

なぜ、さわり・ふれるのか ～仮説～

- 失われていく世界とのつながり
- 失われていく自己
- 自分を探す旅
- 誰かと何かと繋がりたい 繋がっていたい
- 繋がっている事での安心するのではないか

人は常に何かと繋がっている
そのことで様々な関係と
自分とのバランスを保っている
(人 物 地域 感じる全てetc)

どう繋がっていたか？
どう繋がっているか？
どう繋がってほしいか？

人やものとの繋がりで、もっとも大切なこと

『認知機能の障害（低下）を理解する』

認知症とは何ですか？

質問です

厚生労働省のHP

「生後いったん正常に発達した種々の精神機能が慢性的に減退・消失することで、日常生活・社会生活を営めない状態」をいいます。

WHO（世界保健機関）の定義

- ・ いったん発達した知能が、様々な原因で持続的に低下した状態（年をとってもの忘れがひどくなり、生活に支障が出ること）。
- ・ 認知症とは、通常、慢性あるいは進行性の脳の疾患によって生じ、記憶、思考、見当識、概念、理解、計算、学習、言語、判断など多数の高次脳機能の障害からなる症候群である。
- ・ ごく普通に社会生活を送ってきた人が、主に老年期に慢性の脳機能障害に陥り、判断能力等が異常に低下して社会生活に支障をきたす「認知（知能）障害」です。

ウィキペディア

・ 認知症（にんちしょう、[英](#): Dementia、[独](#): Demenz）は、後天的な[脳](#)の器質的障害により、いったん正常に発達した[知能](#)が低下した状態をいう。これに比し、先天的に脳の器質的障害があり運動の障害や知能発達面での障害などが現れる状態は[知的障害](#)、先天的に[認知](#)の障害がある場合は[認知障害](#)という。[犬](#)や[猫](#)などヒト以外でも発症する。

介護保険法上の定義

(認知症に関する調査研究の推進等)

第五条の二 国及び地方公共団体は、被保険者に対して認知症（脳血管疾患アルツハイマー病その他の要因に基づく脳の器質的な変化により日常生活に支障が生じる程度にまで記憶機能及びその他の認知機能が低下した状態をいう。以下同じ。）に係る適切な保健医療サービス及び福祉サービスを提供するため、認知症の予防、診断及び治療並びに認知症である者の心身の特性に応じた介護方法に関する調査研究の推進並びにその成果の活用に努めるとともに、認知症である者の支援に係る人材の確保及び資質の向上を図るために必要な措置を講ずるよう努めなければならない。

その1

脳血管疾患、アルツハイマー
病その他の要因に基づく

原因となる疾患

約70～100

その2

脳の器質的な変化により
脳という器が壊れてゆく

その3

日常生活に支障が生じる
程度にまで

これまでできていたことが
できたりできなったりと
困難と思える状態へと向かう

その4

記憶機能及びその他の 認知機能が低下した状態 知的な能力が変化してゆく

認知機能とは

記憶の機能

- ・ 思い出す、覚える機能

見当識の機能

- ・ 時間や場所の見当をつける機能
- ・ 物の名前を見当をつける機能

実行機能（行為／認識／言語など）

- ・ 生活するための行為
（着替え・買い物・掃除・料理・トイレの始末等）
- ・ 言葉で伝えること
- ・ 字が書くこと
- ・ 判断をすること
- ・ 計算をすること
- ・ 同時に複数の事を行うこと 等々

介護保険法上からの抜粋

- 脳血管疾患、アルツハイマー病その他の要因に基づく
- 脳の器質的な変化により
- 日常生活に支障が生じる程度にまで
- 記憶機能及びその他の認知機能が低下した状態をいう。

実際の虐待事例を通して 演習

こんな時どうしますか？

- 夜間オムツ交換時に、熟睡しておられる方でしたが、尿で汚れていた。

実際にあった虐待の事例

- 夜間、オムツ交換の時間となったので、Aさんのオムツを取り替えようと訪室し声をかけたが起きない。Aさんのオムツに手を入れ確認したところ尿で汚れていた為、そのままオムツの交換を始めた。すると突然Aさんが目覚め、大声を出し、スタッフの髪を引っ張ったり、顔を殴るなどの暴力を振るい抵抗した。

なぜ？

- なぜ、突然 A さんは大声を出し、スタッフの髪を引っ張ったり、顔を殴るなどの暴力を振るって抵抗したのでしょうか？

その後の男性スタッフの対応は？

反応（リアクション）の姿

- あまりにも突然の出来事に思わず反応してしまい、Aさんの胸などを殴ってしまった。

応答（レスポンス）の姿

- その状況を事前にアセスメントできていたか？
- 業務をこなす事（オムツ交換）に重点が置かれてはいなかったか？
- Aさんが目覚めた時の反応を当たり前前に予測できていたか？

「予測を立てて考え、行動する力を養う」

食事の際、手づかみで食べたり、
食事が遅い方がいます

こんな時どうしますか？

よく排泄の失敗をする方がいる。

こんな時どうしますか？

夜、何度も起きてくる方
がいます

みなさんはどうしますか？

何度も同じことを訴えに
くる方がいます

みなさんはどうしますか？

そもそも
仕事の目的・目標
立ち返る理念・哲学は？

これらを基に仕事が行なわれているか？

(有) グッドライフ理念 (抜粋)

- ① 『自分のことは自分ですること』
- ② 『互いに助け合うこと』
- ③ 『社会と繋がっていること』

『点』と『線』と『面』の話

彼らが困っているのは？

ポイントはここ！！

彼らが困っているポイントはここ！！

日常生活に支障が生じる

これまでできていたことが
できたりできなかったりと
困難と思える状態へと向かう

お茶を飲むまで

～「お茶を飲むまで」の思考と認識と行為と感情の関係～

お茶が飲みたいと思う

正座の状態からテーブルに両手をつく

左足は立てひざを保つ

右の足の裏を床につける

テーブルに置いた両手に体重をかける（この時点

で、よっこいしょ！と出る）

左の足の裏を床につける

前傾姿勢を両手で支える

腰を伸ばしながら立ち上がる

台所へ向きを変える

台所へ歩く

お湯を沸かそうと思う

やかんを手にする

やかんのふたをとる

やかんの水を入れる口を水道の蛇口に合わせる

左手にやかんを持ち

右手で蛇口をひねる

水の量を確認しながら適量を入れる

やかんのふたを閉める

～「お茶を飲むまで」の思考と認識と行為と感情の関係

～

やかんをコンロに置く	お茶っ葉の入った筒のふたを開ける
コンロのダイヤルを回す	筒のふたを左手に持つ
火力を調節する	右手で筒を持ち
やかんの様子を気にかける	筒のふたに適量のお茶っ葉を入れる
お茶っ葉のある場所の見当をつける	急須のふたをとり
左手で食器棚の扉を開ける	急須にお茶っ葉を入れる
お茶っ葉の入った筒を探す	お湯が沸いたか気にかける
右手で食器棚からお茶っ葉が入った筒を取り出し置く	お湯の沸き具合を音でも確認する
食器棚から急須を取り出し置く	お湯が沸いたかどうか湯気の出具合で確認する
食器棚から湯飲み茶碗を取り出し置く	お湯が沸いたことを認識する
食器棚の扉を閉める	コンロのダイヤルを回し火と止める

～「お茶を飲むまで」の思考と認識と行為と感情の関係～

やかんを持ち上げ	居間へ歩く（慎重に歩く）
沸いたお湯を適量急須に注ぎこむ	居間のテーブルにお茶の入った湯のみ茶碗を置く
急須のふたを閉める	両手をテーブルにつき座る（よっこらしょ！と口が
湯飲み茶碗にお湯を適量入れる（湯のみ茶碗を温めるため）	ら出る）
やかんをコンロの上に戻す	楽な体勢になる
湯飲み茶碗のお湯を捨てる	右手に湯飲み茶碗を持つ
湯飲み茶碗に急須に入っているお茶を注ぎこむ	左手で底を支える持つ
湯飲み茶碗を持つ	両手で丁寧を持ちゆっくりと火傷しないよう口元に
	近づける
	熱さを確認しながら口に注ぎ込み飲む

『私たちの中で起こっている認知機能の理解』
 思考と行為と感情の関係・点と線と面の繋がり
 によって達成される

- ・私達は、普段の生活において、このように細かい**思考と行為と感情の関係と、その点と線と面の繋がり**の連続であることまで考えたり、意識してお茶を淹れない。
- ・だから、いざ分析してみると多くの人は大雑把に分類することになる。
- ・しかし、ここで思い出したことは、「お茶を飲むまで」と言う行為は、このように様々な**思考と行為と感情の関係と、その点と線と面の繋がり**であるということ。
- ・そして、その一つひとつが繋がりあって一連の生活動作として、若しくは生命活動として自然にやってのけている。

『私たちの中で起こっている認知機能の理解』
 思考と行為と感情の関係・点と線と面の繋がり
 によって達成される

- ・思考と行為と感情を「**点**」と考えるのであれば、その「**点**」の一つひとつが出来るのと同時に、それらが繋がってはじめて「**線**」となり一つの目的を達成することで、「**面**」となり、生活に広がり潤いをもたせている。
- ・しかし、この「**点**」と「**点**」の**繋がり**、又は「**点**」そのものが、自然の変化である老化或いは、ある種の疾病や障害又は不自由で阻害されるような他の力が加わったとしたら果たしてどうなるであろうか。
- ・間違いなく目的は達成されず、お茶を飲むことはできないであろう。目的が達成されるどころか、途中で戸惑い、混乱し、不安になるであろう。自分を責める人もあれば、他のせいにする人もいるであろう。

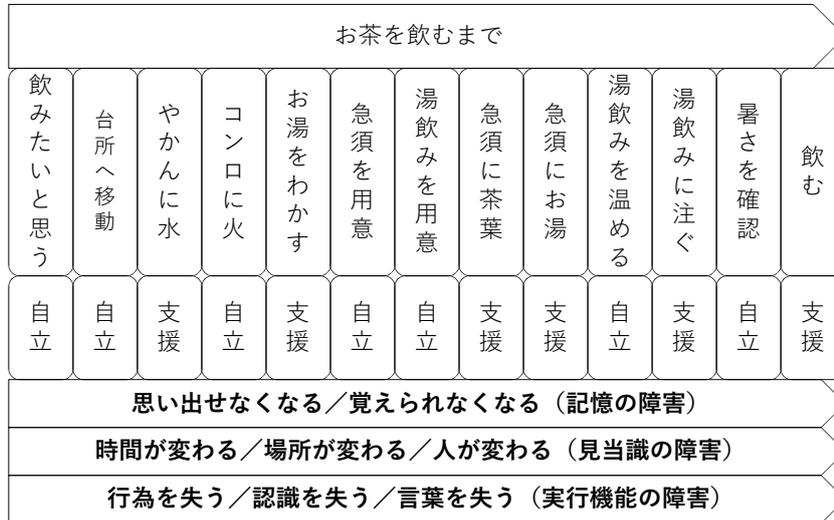
『私たちの中で起こっている認知機能の理解』
知る⇒経験する⇒感じる⇒気づくの繰り返し

- ・ 認知機能の変化によって、生活に不自由を感じる。
- ・ 記憶、見当、実行機能などの認知機能の障害がその中枢にあるとすれば、「お茶を飲むまで」の一連の思考や**行為や感情の関係と、その点と線と面の繋がり**に不適應な状態をきたす事は言うまでもない。
- ・ ましてや、今までできていたことが出来なくなってゆく様を経験するのは、耐え難い経験とを感じる人もいる。

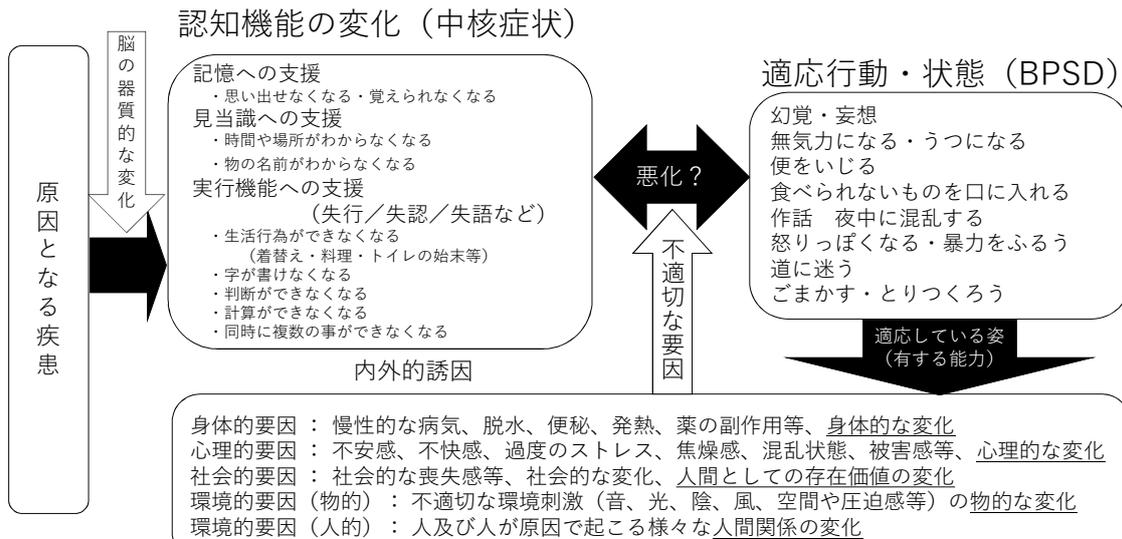
『私たちの中で起こっている認知機能の理解』
知る⇒経験する⇒感じる⇒気づく の繰り返し

- ・ 様々な不自由に照らし合わせれば、それぞれに違う支援がいる。彼らの不適應を知るということは、生活をベースとした、この一連の**思考や行為や感情の関係と、その点と線と面の繋がり**を分析できる力とそこから彼らの不適應に対する支援を届ける力を持つこと。
- ・ 私たちの専門性とは、「ひとの生活の営みの中で起こる変化」を知り、経験し、感じ、気づくことであり、健全な生命活動の支援につなげてゆくこと。
- ・ 確かに「認知症の理解」も大切だが、その前に「ひとの営みの理解」が先だろうと思う。

生活の支援のポイント 『生活の点の見極めから線へ繋げる（生活の再構築）』
認知症の状態にある人の生活行為の困りごとと支援の仕組み



『人』と『認知症』の繋がり図（全体像）



人（宮崎さん）の過去・現在・未来・終末

認知機能の変化への支援

- 『手続き記憶に働きかける』
- 『見当識への働きかけ』
- 『実行機能への働きかけ』

内外的な誘因へのCARE⇒要因への支援

- **身体的要因（身体的な変化）**：慢性的な病気、脱水、便秘、発熱、薬の副作用等
- **心理的要因（心理的な変化）**：不安感、不快感、過度のストレス、焦燥感、混乱状態、被害感等
- **社会的要因（社会的な変化、人間としての存在価値の変化）**：社会的な喪失感等
- **環境的要因（物的な変化）**：不適切な環境刺激（音、光、陰、風、空間や圧迫感等）
- **環境的要因（人間関係の変化）**：人及び人が原因で起こる様々な人間関係等

適応／順応行動・状態（BPSD）への支援

- ・ 幻覚・妄想・無気力になる
- ・ 便をいじる（弄便行為）
- ・ 食べられないものを口に入れる（異食）
- ・ 作話・夜中に混乱する
- ・ 怒りっぽくなる・暴力をふるう・大声を出す
- ・ 道に迷う・ごまかす・とりつくろう など

認知機能の障害（低下）というのは

**認知機能の障害が複雑に絡み合うことによって
生活がうまい具合にいかなくなってゆくことをいうのです**

その人の持つ
認知機能の障害（低下）をケアする
ということは

生活をベースに
どの機能等が複雑に絡み合っ
てうかかないのかを見極めながら
支援してゆくことである

認知機能の障害（低下）に応じるとは

- 生活の繋がりを見極め、手立てる
- 要因や誘引を探る
- その瞬間最大限の本音に応じる

認知機能の障害（低下） の支援の実際

認知機能の障害（低下）の支援の実際

- 『手続き記憶に働きかける』
- 『見当識への働きかけ』
- 『実行機能への働きかけ』

認知機能の繋がりと継続を通して 身体と心と感情を癒してゆく

認知機能の障害により起きる状態が主体的に緩和されてゆく

『人と認知症と向き合うための基本3ヶ条』

その1

身体、心、魂と社会、環境は本質的なところで互いに信頼し支え合っている。ホリスティック（包括的）に捉える支援が大切。

その2

つまり、認知症そのものの介護するというよりも、その人の心の中にある感情を癒すことに目を向けるべき。

その3

支援の本質は、人として生きてきた姿が尊ばれ、生きている姿に関心が向けられ、生きていく姿そのものの創造に役立てることだ。

『人と認知症の信頼構築のための基本 6 ヶ条』

- その一 「繋がるきっかけを投げかけて観る」
- その二 「相手に応じる」
- その三 「相談事を持ちかける」
- その四 「とにかく賞賛、讃える」
- その五 「リアクションは大きく」
- その六 「付かず離れず、適度な距離感を作る」

その1 【繋がるきっかけを投げかけてみる】

初対面で人と相対するということは、緊張しますし結構勇気がいります。しかし、そんなことを言っていられないので、簡単にできる術をひとつ。それは、相手とすれ違った時や、日常の場面で顔を合わせた時なんかは、相手の反応を待つのではなくて、自分から挨拶や笑みを相手に投げかけてみるのです。基本、それだけでいいです。そうすると、否応なく人との繋がりを体験することになります。安心して下さい。以外といい反応が還ってくるものです。初対面の場合なんかは、緊張していますから、どう話しかけようなんて人もいるでしょうね。ここでは、ちょっとしたきっかけさえあれば繋がるという経験をおすすめします。

まずは笑いかけてみるから始めませんか？人間って結構平和な生き物です。

これどんな人間関係でも基本使えますから、やってみて下さい。

その2 【相手に応じる】

これ、相手のリアクションに応じるってことです。

例えば、「はい」「へ〜」「うん、うん」「わかります」「そうですね」「それは大変でした」「それいいですね」などなど、相手が言ったことに対して、ひたすら共振してみる。

場合によっては、相手の言った言葉を繰り返すことで、相手は自分と繋がっていることを体感するでしょう。

とにかく、相手に応じること。

一般的には「共感」と言うのですが、これは「共感」とは少し違います。

人間はそう簡単に共感などできません。

実際はまったく感性が異なりますから、ひとそれぞれなのです。

まずは「実際に応じる」のです。

ただ無心にひたすら応じることで、繋がりの意識が芽生えてくると思いますよ。

あとは流れに身を任せて観ましょう。

みなさん、騙されたと思って騙されて観て下さい。

その3 【相談事を持ちかける】

簡単に言うと、お願い上手、お頼み上手、そそり上手、ヤラセ上手のこと。

あまりいい言葉じゃないような気がしますが、とにかく相手の自尊心をくすぐることをおすすめします。

日常の生活の出来事で、相談事を持ちかけるように、相手の自尊心に委ねてみる。

人間は、知っている解っていることよりも、知らない解らないことの方が、圧倒的に多いのです。

時には全面的に相手に委ねきってしまうのもあり。

人間は、なんか頼られたり頼まれたりすると、気持ちがいい時があるもの。

ただし、知っていたり解っていたりしても、やりたくないとか、そんな心情が働く時もある。

そんな時こそ、やりがいを感じて、まずはやって観て下さい。

間違っはいけないのは、相手の自尊心を高めるのが目的なのに、自分の自尊心や安全安心が最優先になっちゃう人。それ、決して間違じゃないけど、ただ「ありがとう」と言われたいからするとか、「感謝されたい」こ

とが第一の目的になると、同じようなことをしているようだけど、まったく違いますから。

相手の自尊心が高まって、豊かな日常を送ることができることが、僕たちの喜びになるといいですね。

その4 【とにかく賞賛、讃える】

よく褒めることはいいことだと聞くけど、あれはちょっと違うな。

褒めるって言うのは、なんか上から目線と言うか、目上の人が目下の人に使うような印象を受ける。

例えば、目下の者から目上の人に、「よくできました」とは言わないだろうし、言えたとしても、それはお互いの関係によりますけど、「褒める」感じにはならないでしょうね。

どちらかと言うと、「凄いっすね」「流石っすね」という感じで使うでしょ。

讃えるって言うか賞賛している感じ、若しくは、ゴマをすっていると言うか(笑)嘘くさいのはすぐバレます。

例えば、「〇〇さんって、凄いです」とか「〇〇さん、流石ですね」とか、これ言われた方は案外嬉しいものです。賞賛したり、讃えたり三昧で。

まっ、心にもないことを言うと、顔や態度に出るから気をつけて下さいね。と言うか、心にもないことは言わなくていい。まずは試して観て下さいな。

これ徹底的にやると、人間関係改善間違いなし！

その五 【リアクションは大きく】

芸人のようにやれとは言わないけれど、そのくらいの勢いは大切かな。

ユーモアってほんと結構大事。

自分が誰かと話している時も、少し大きめのリアクションが返ってくると、ちょっと嬉しかったりしません？

何より印象に残ります。

そこまで大きくしなくとも

返事をする（少し歯切れよく）

相槌を打つ（少し弾むように）

相手の目を見て話を聞く（少し前のめりに）

これだけでも、ぜんぜん相手の感じ方は変わると思いますよ。

これ必須っす。

その六 【付かず離れず、適度な距離感を作る】

とかく、コミュニケーションの名の下に、初対面でいきなりベタベタとくっついて話をしている人がいますけど、これ如何なものかと思う。これ、ちょうど良い距離感を作ることが、最大のポイントかもしれませんね。一口に距離感と言っても、物理的な距離だけのことではないということ。距離だけだと、相手との物理的な数値的なことでいいのですが、「距離」に「感」がくっ付くので、相手との物理的な距離をどう感じるかというものになります。

よくパーソナルスペースとか言いますが、そのパーソナルスペースも、他者との関係に影響されますよね。つまりその距離と距離感は決して一定ではないということ。さらに掘り下げると、日々の感情や出来事や関係性によって、常に変化するものなのです。

たとえ親しくても、この距離感は一筋縄にはいかないのが、歯がゆいところ。

例えば、普通に話していても、時にはタメ口も挟み込みながら話しかけてみるのもいいのですが、ただこれ「親しき仲にも礼儀あり」という諺があるように、とてもデリケートなものです。

うまく考え距離を縮めていきながら、会話の中に活かして観てゆくことしかないようです。

人が自分のことをどう思っているのだろうかとか、人の目を気にする人がいますが（私のこと）それは別な捉え方言い方に変えると、人の距離感を敏感に感じる人、感性が豊かな人になると思います。

自分や周囲が欠点だと持っていたことが、自分の中の前提をひっくり返すことで、ポジティブになりませんか？

要はこの距離感って結構大事っすよってこと。

試してガッテン！

前提を変える

『の』から『と』へのすすめ

これまで から これから

認知症⇒人

- ⇒認知症の人・認知症高齢者
- ⇒認知症の宮崎さん
- ⇒便を壁に塗り付ける
- ⇒弄便行為
- ⇒つなぎ服

人⇒認知症

- ⇒認知症と人
- ⇒宮崎さんに認知症
- ⇒便を壁に塗り付ける
- ⇒便の処理が困難
- ⇒事前のアセスメントを充実
- ⇒生活のピンポイントの支援

『の』から『と』へ

『**認知症の人**』



認知症を通して人を一括りに捉える文化



『**認知症**』と『**人**』



人と認知症をそれぞれ捉える文化

まとめ

Nさんからの普遍の7つの教え

1. 主体的に行っていること
2. やりたいことであること
3. 好きなことであること
4. 人の役に立つこと
5. 人に喜ばれること
6. 人に伝えられること
7. 生業が生かされていること

「帰りたい」

あなたはどうか対応しますか？

「帰りたい」⇨帰宅願望・帰宅欲求なんかじゃない

「帰りたい」って言う人がいます。「帰りたい」のは山々だけど、「帰れない」ことも薄々感じています。本当は、「帰れない」けど「帰りたい」という気持ちをただわかって欲しいだけなのです。みんな「帰りたい」でも「帰れない」。人は本当の気持ちを言いません。本当は「帰りたい気持ち」をわかってもらえなくて悲しいのです。そう言っているだけです。一度でいいですから、その気持ちを受け止めて心から聴いてあげてください。「帰りたい」という気持ちと、「帰りたくなる」私の周りの私の扱いに気づいて下さい。洗濯物をたたむことで誤魔化さないで下さい。料理をつくることで誤魔化さないで下さい。レクや療法をして誤魔化さないで下さい。ドライブや買い物で誤魔化さないで下さい。「帰りたい」気持ちの裏に耳を傾けて欲しいだけです。「わかりました」と一言でいいから、気持ちを受け止めて下さい。まずは「はい、わかりました」と、ただそれだけでいい、わかって下さい。

ひとは
どのような状態であっても
感情・感性は最期まで
そこに「在る」ものです

悲しみ・怒り・羨望・不安・愛

みなさんへ贈る3つの大切な『こと』

1. ひとりで抱え込まないこと
2. うまくいくケアばかりに気を取られ
人の気持ちをどこかに置き去りにしないこと
3. 人と人との信頼関係を最優先に築くこと

権利擁護の本質的な目的

- 身体拘束防止の根底には、高齢者の人権尊重に対する意識が必要である。
- 身体拘束にあたるか否か検討することではなく、また虐待にあたるか否かでもなく、ましてや「虐待で無ければやってよい」のではない。

105

虐待を未然に防ぐためには（本質）

- 「常に良質なCAERとは何か？を考え、信頼関係の構築に気を配る事によって、結果的に虐待が防止される」という考え方（哲学）をもつこと。
- しかもそれはチームで行うこと。
- そこから良いスパイラルを築いていくこと。

106

良質なCAER⇒虐待を防止

CAREとは⇒気を配ること

ケアとは⇒介護、世話

皆さんお疲れ様でした。
ありがとうございました。
た。

ライフヒストリー

過去の生活・人生背景を知る

ライフヒストリー（過去の生活背景）

旧姓・出生地（出身地）・方言・子供の頃・愛称・学歴・得意な科目・親の仕事・兄弟姉妹・仕事・結婚・本人の子供・病気・排泄習慣・いつもいた場所（家・その他）・ペット・本人の性格・髪型・食べ物の好き嫌い・食事習慣・好きな色・好きな物（小物など）・大切な家具・服装・整容・入浴習慣・得意なこと・本人の自慢話・本人の苦労話・家族の自慢と苦労・調理（料理）・畑仕事・その他生活習慣
資格過去の出来事（10代・20代・30代・40代・50代・60代・70代・80代・それ以上代など）・その他特筆すべきことなど

高齢期の喪失体験

- 地位の喪失 仕事や家庭内の地位
- 収入の喪失 就労による社会的収入
- 健康の喪失 身体機能低下や病気
- 仲間の喪失 退職／転居／死別など
- 生きがいの喪失 退職／引退／育児など
- 役割の喪失 仕事・家庭・社会的役割
- 生命の喪失 加齢に伴う余命